

データ教材集 第3集

線の練習ワーク I の

学習目的

ことばのテーブル データ教材第3集 線の練習ワーク I

は、
さまざまな線の練習課題を通して

文字習得や描画の基礎となる能力を
育てるための教材

◎線全般についての、より詳しい説明として、
教材関連資料の「第15回学習会：線を考える」
も、同時にご参照いただければと思います

線の練習ワークⅠの製作意図

ことばのテーブルでは、ことばの学習と並行して
いろいろな線の練習課題を行っています。

それは、

文字や描画の基礎となる

線の認識・描線的能力を育てる

というのが、いちばんの理由・目的ですが、
そのほかにも、線の学習には、
療育として、さまざまな意義や目的があります。

線の学習の意義①:

ことばの指導の中での役割

発達障害の子どもにとって、ことばは、とくに苦手な領域で、その学習にはストレスが伴います。

一方、線を見たり、描いたりする活動は、遊びやゲーム感覚で取り組め、多くの子どもにとっては、ことばの勉強の合間の、息抜きの学習課題になれるようです。言語指導の中に、線の学習を組み込むことによって、子どもの集中や学習に対する意欲を高めることができます。

線の学習の意義②:こころを育てる

線には、それを描いた人の心が反映されています。か細い線には心の不安が、乱雑で不均一な線には衝動性や情緒の不安定さが読み取れます。また、感情だけでなく、明確な線の起点・終点の形成や、線の方法変換などには、意識的な判断が必要とされます。いったん手を止めて、そこからまた意図に沿った線を再開してゆく瞬間は、心に自分という意識が立ち上がる瞬間でもあります。線の練習を通して、自己意識を高めて行くこともこのワークの狙いのひとつです。

線の学習の意義③：規則の理解

線の練習課題には、さまざまな実施規則があります。「同じものを線でつなぐ」「同じものを線で囲む」「絵と対応した形を描く」などなど。

それらの規則は、認識や学習の基本となるものばかりですが、ことばだけの説明では、子どもにとって理解が難しく、そのような場合、具体的な課題に取り組ませて行く必要があります。

ことばの指示とともに、例を示され(デモ)、課題を繰り返すことによって、子どもは規則を洞察して行きます。線の学習は、生活や学習の基盤となる規則を学ぶための大切な場でもあります。

線の学習の意義④：動詞の理解

線の練習課題には、いろいろなことばが出て来ます。その中でも、「同じ形を線で**つなぐ**」「線で**囲む**」「線で**分ける**」「**○をつける**」「**よける**」など、とくに動詞が、課題遂行のために重要となります。

動詞は名詞と比較して、その語義(ことばの意味)が難しいことばです。会話の中で使われている動詞を受身に聞いているだけでは、なかなかその意味が洞察できません。線の学習で、動詞が出て来る場合、そのことばに触れ、また実際に自分でその動作を行うこととなります。線の課題は動詞学習においても大切な役割を担っています。

線の学習で留意する点

線の認識や描線、空間構成などに強い困難を持つ子どもにとって、線の課題は、重要であると同時に、ストレスの高い学習でもあります。

課題の選択や進め方を、得意なものや容易なものから、ゆっくり急がずに、を原則として、学習に取り組んでもらう必要があると思います。

ワークを初めていただくにあたって

このワーク集に収められている各課題は、それぞれの達成年齢（何才程度であればできるか）が、わかっているものではありません。

発達障害の子どもは、発達に偏りがあることが多く、検査などでの発達年齢が同程度でも、難しい線の課題に取り組める子どももいれば、そうでない子どももいます。

子どもの能力や状況に応じて、課題のハードルを調整しながら、無理なく進めていただければと思います。

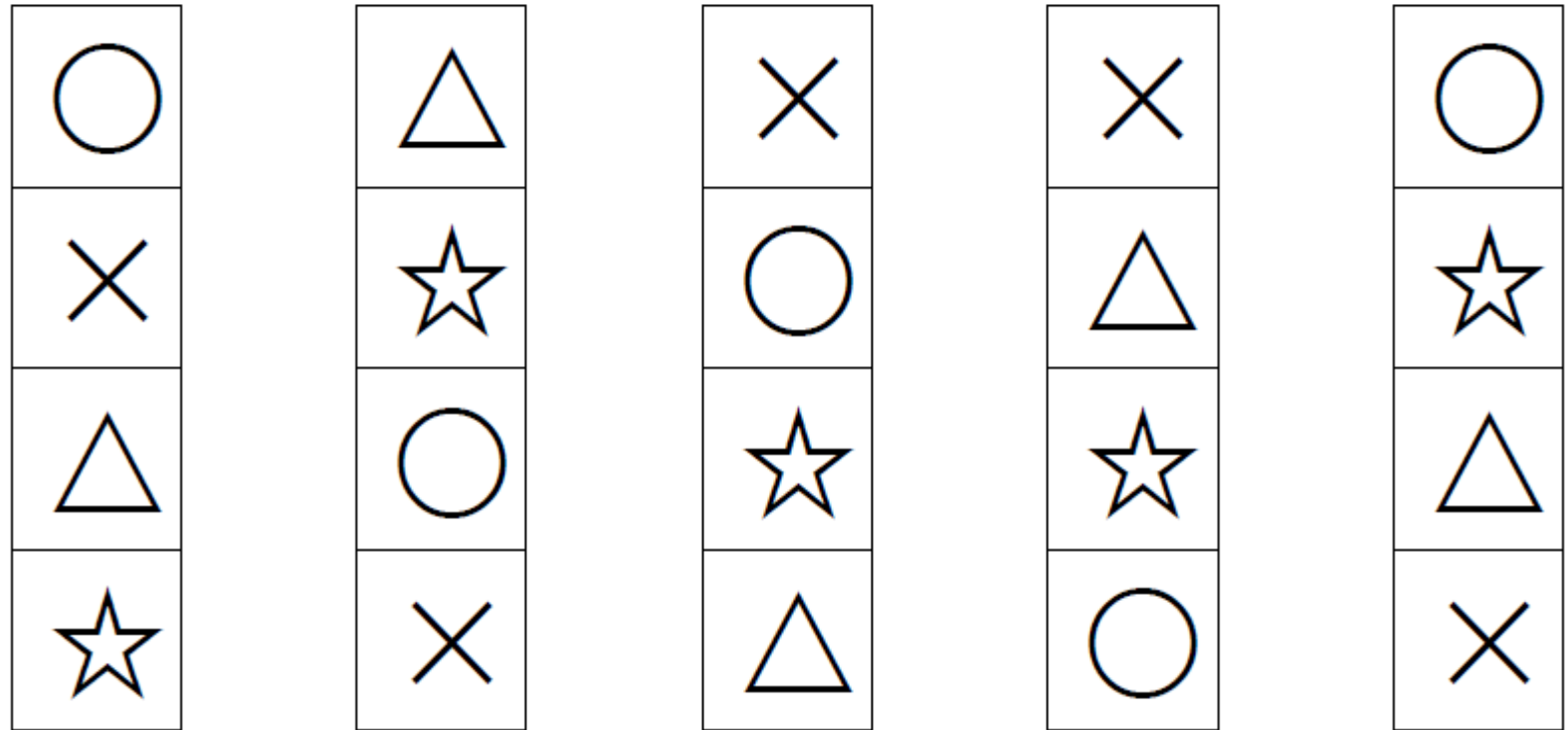
各練習課題の学習目的

線の練習ワーク I の練習課題

- 1 同じものを線でつなごうA:ギザギザライン型
- 2 同じものを線でつなごうB:数珠つなぎ型
- 3 絵に合わせて形を描こう
- 4 線でイチゴを分けよう
- 5 よけてゴールしよう
- 6 形を探そう
- 7 線で捕まえよう
- 8 見えない線を描こう
- 9 同じ色の○を線で囲もう
- 10 矢印をたどって○をつけよう

1 同じものを線でつなごうA: ギザギザライン型

おなじものを せん 線でつなごう A 1



1 同じものを線でつなごうA:ギザギザライン型

●学習の目的

①認知(探索・探し当て)→②判断(描線の意図)
→③実行(描線) という行動図式を作る

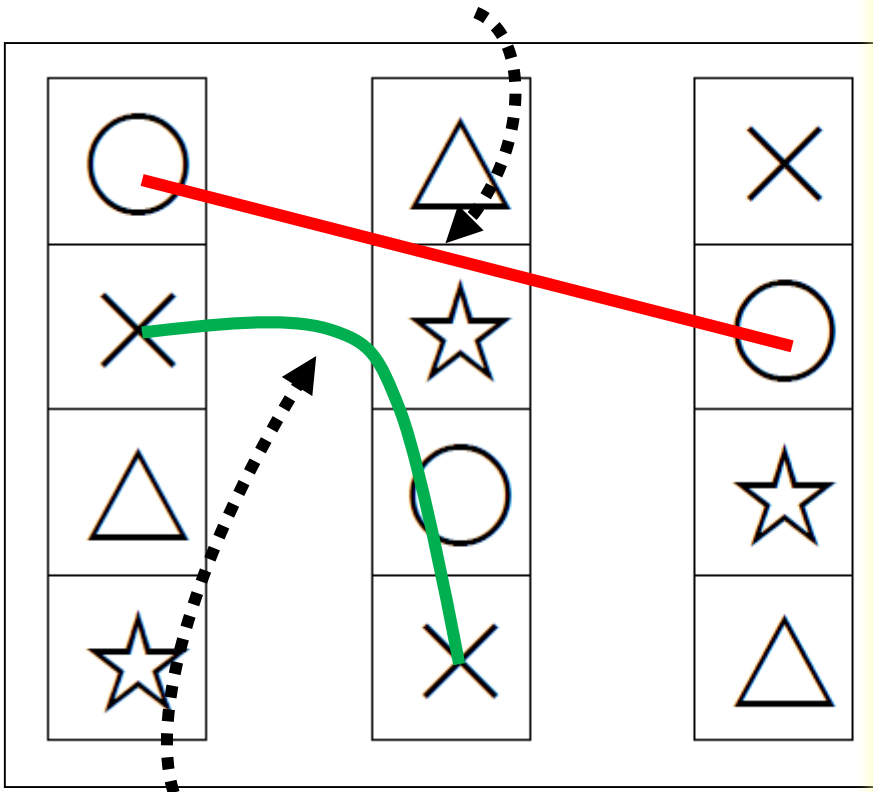
★描線能力として

同図形を探索しながら、ペンを紙から離さず
くっきりとした折れ線が描けるように。

第15回学習会「線を考える」スライドから

× よくあるエラー

①列を飛ばす



②線が最短距離
を取らない

どちらも、ルールの
エラーではなく、
注意不足や衝動性
に原因がある



まず行動してしまう

第15回学習会「線を考える」スライドから

「同じものをつなげよう」の目的

認知 → 判断 → 実行

という、行動図式をつくる

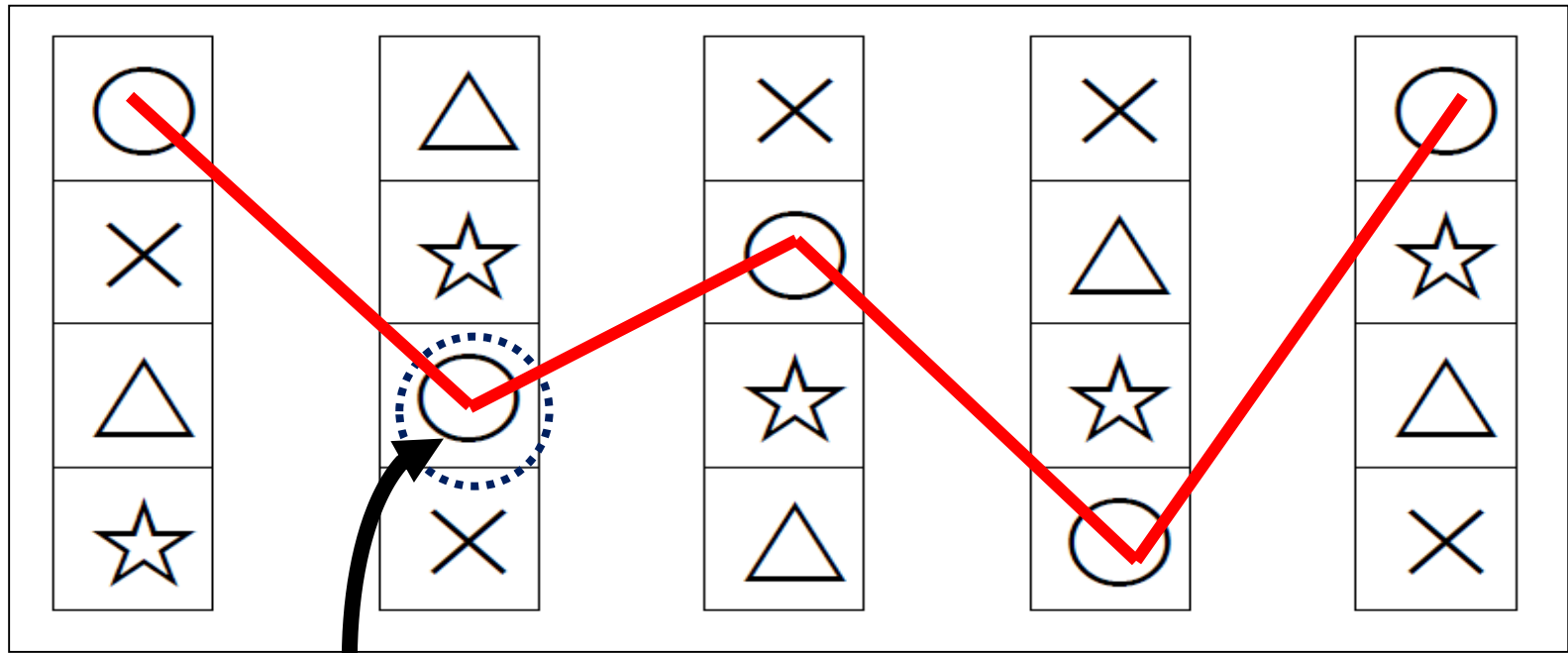
止まって、

見て、

判断して

実行する

第15回学習会「線を考える」スライドから



曲線ではなく、
きっぱりとした折れ線で
引いてほしい

次の標的を見定めてから
線の方角を変える

課題に対する明確な
意図・応答

しかし、発達障害の子どものは多くは、
描線の課題に関わらず、
まず「やってしまう」ことで
失敗してしまうことが多い。

指示や、判断を待つことが難しく

つねに、性急に、前がかりで
行動する傾向がある

それはなぜだろう？

「まずやってしまう」のは、
さまざまな原因があると思われる

● 抑制力の乏しさ 衝動性の高さ

＊ 抑制と促通のバランスが取れていない

● 状況に対する不安

＊ 決まった構造・パターンへの固執

● 注意・集中能力の乏しさ

＊ 状況全体に目を配ることが難しい

＊ 一定の水準で注意を維持できない

コミュニケーション的な見方からは・・

●他者への注目・関心の乏しさ

＊ 相手からの働きかけに気づかない

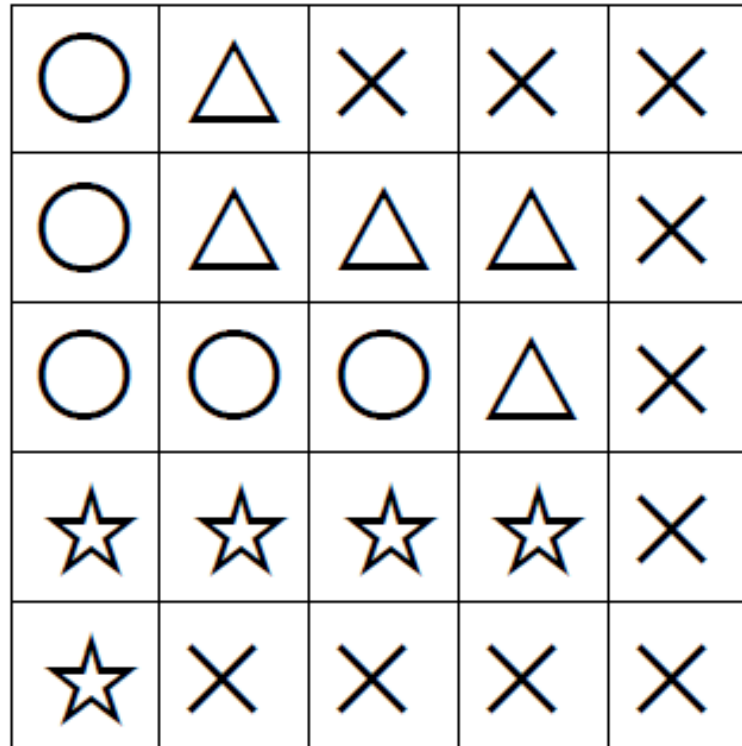
●社会性の乏しさ

人間の活動は、すべて他者と自分との
歩み寄りで成り立っている

かわりばんこ

2 同じものを線でつなごうB:数珠つなぎ型

おなじものを せん 線でつなごうB 1



2 同じものを線でつなごうB: 数珠つなぎ型

●学習の目的

連続するものの区間の確認を通して、線の量（長さ）や、始点—終点への気づきを高める

★描線能力として

同じ事物や記号を目で追いながら、同時に、途切れないように線が引けるように。

3 絵に合わせて形を描こう

え 絵に合わせて
かたち 形をかこう 1



3 絵に合わせて形を描こう

●学習の目的

記号対応規則の理解と、規則の維持（記憶）、
照合作業の際の注意の能力を育てる

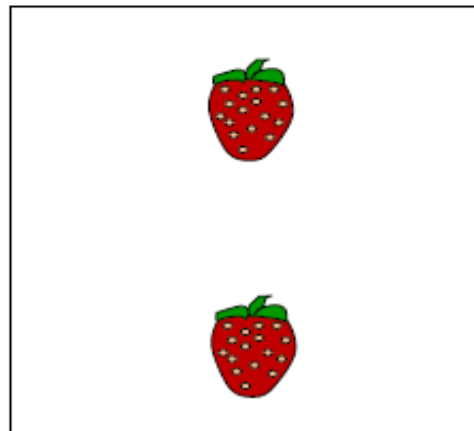
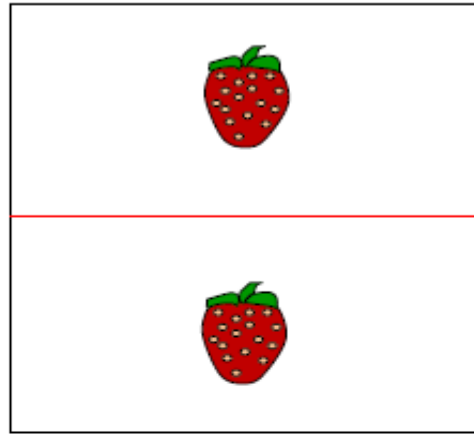
★描線能力として

さまざまな線や形の描線・描画を練習する。

＊子どもの描線能力に応じて、未熟さの強い子どもの場合は、おおむねの再現（模写）で、より高いレベルでの練習の場合は、線の幅や傾き、図形の大きさや位置関係などにも気をつけさせる。

4 線でイチゴを分けよう

せんでイチゴをわけよう 1



4 線でイチゴを分けよう

●学習の目的

空間に線を引く課題を通して、線による分割が形を描出し、また空間の位置や数を生みだすことに気づく。また図形の辺や角への注目を促す。

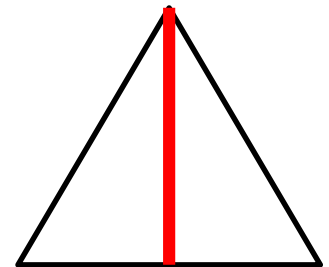
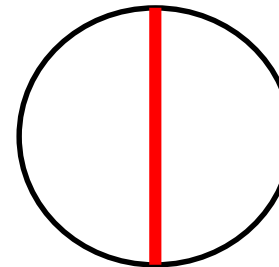
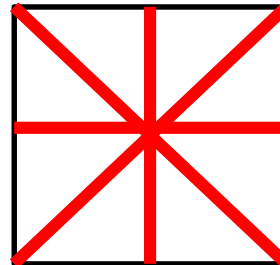
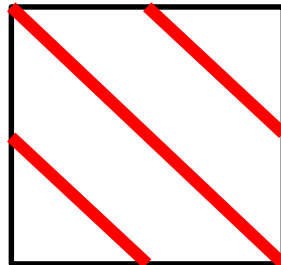
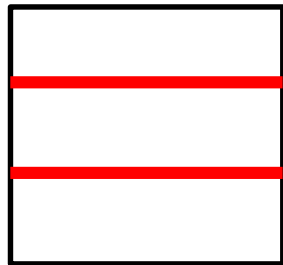
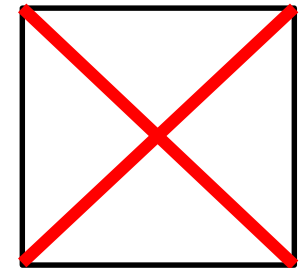
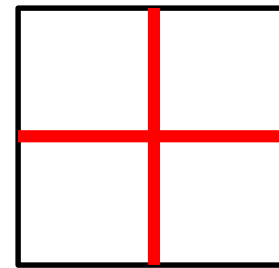
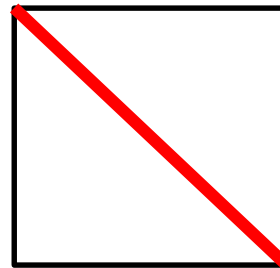
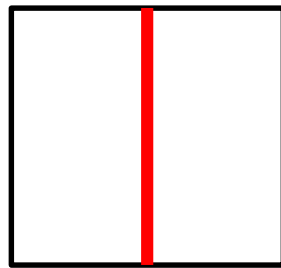
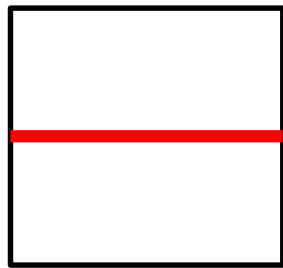
★描線能力として

「分ける」という意図・行為の援助を受けながら、さまざまな傾きや、それらが交差する線分を描く。

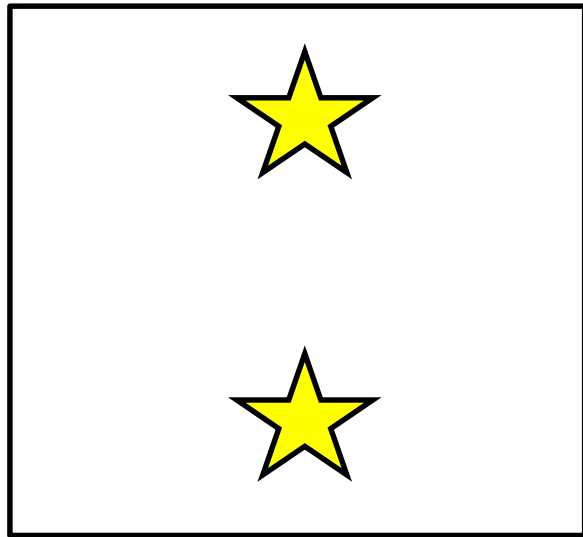
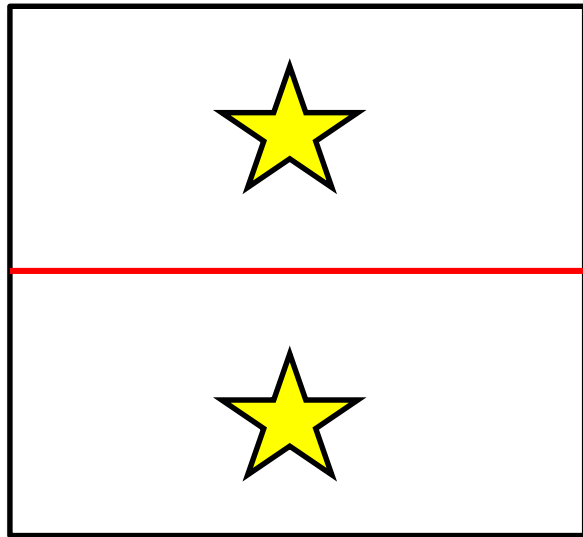
★線による分割

線が空間を分けることによって

位置・形・数が生まれる



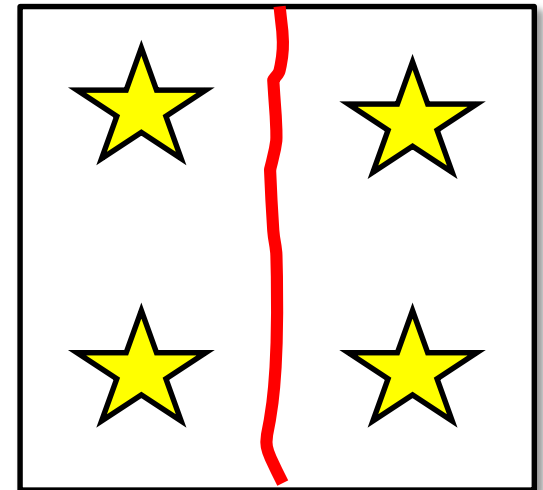
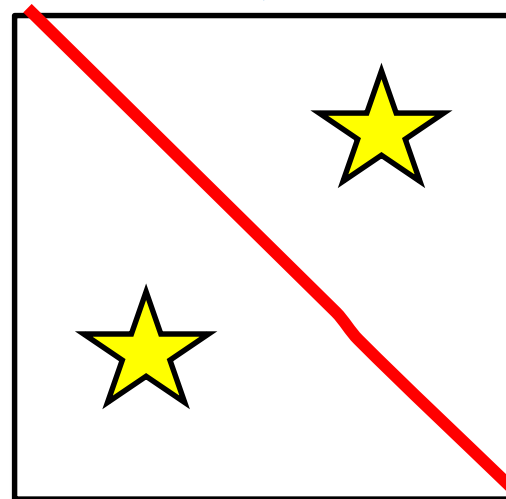
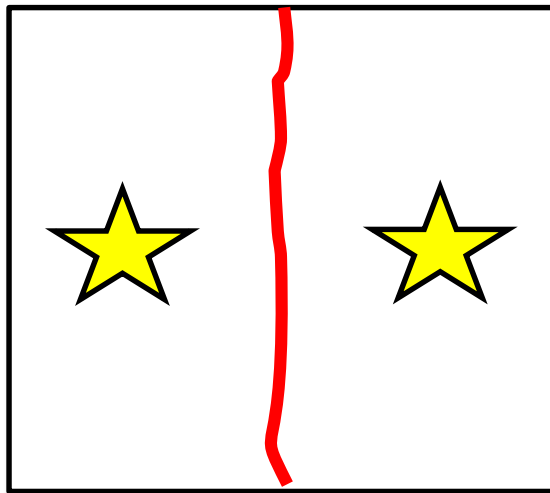
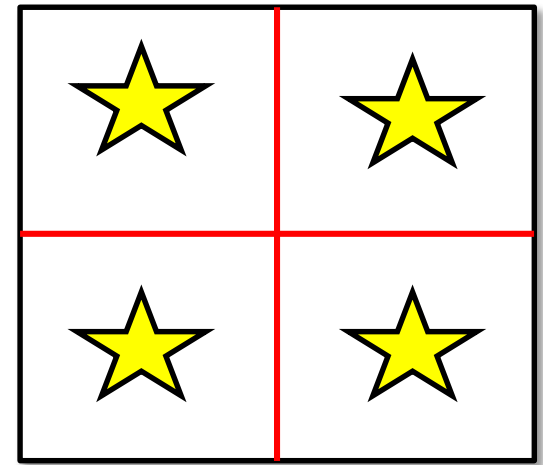
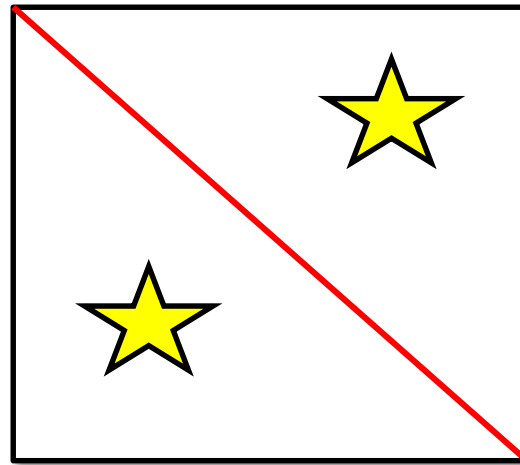
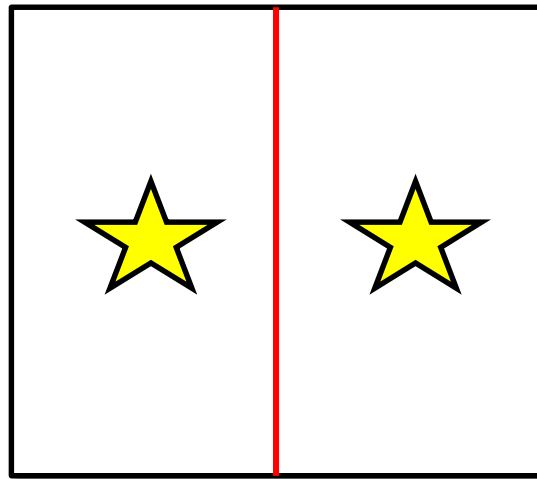
第15回学習会「線を考える」スライドから



手本と同じように、
空間に配置された
星を線で仕分ける

線を模倣するのではなく、
「分ける」という目的により
結果的に、線が生まれる

第15回学習会「線を考える」スライドから



* 模倣では困難だった線を描けることが多い

5 よけてゴールしよう

よけて ゴールしよう 1



5 よけてゴールしよう

●学習の目的

衝動性を抑え、抑制された行動と心理的な安定の形成を促す。また課題達成のための計画立案（この課題ではコースプラン）の必要性に気づかせる。

★描線能力として

障害物に触れないための、描線の速度のコントロール（緩急）と、先を見通してのコース変更ができるように。

第15回学習会「線を考える」スライドから

遅速化の課題

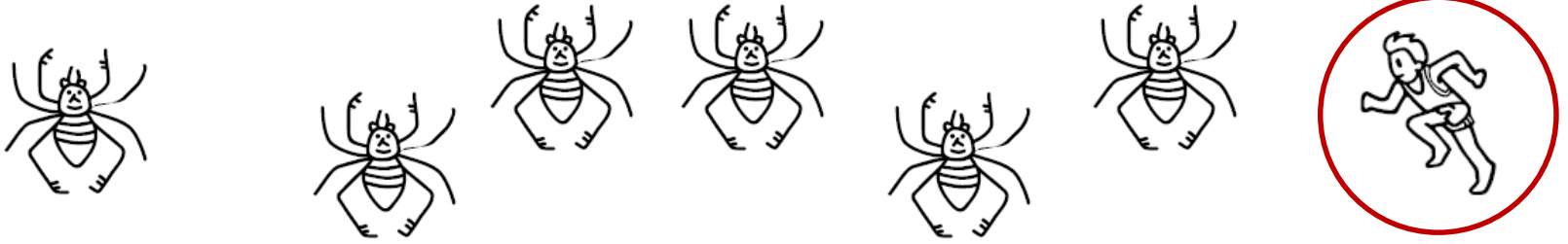


ゴールまで障害物に触れないように線を引く

できるだけ、ひと筆描き(1ストローク)で引く

この課題をクリアするには、
いくつかのポイントがある

第15回学習会「線を考える」スライドから



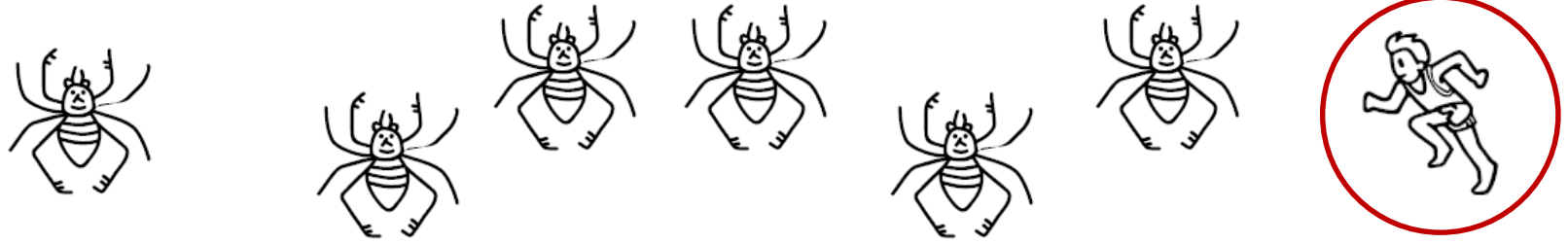
ポイント① 描線の速度のコントロール

* 簡単な所は速く、難しい所はゆっくり

ポイント② ストロークの変更

* コースを変える箇所で、手を止め、
ペンを紙から離さずに、コースを変える

第15回学習会「線を考える」スライドから



ポイント③ 描線のコースプラン

* 行く手のコースの見通しを立てる

ポイント④ ペースの安定

* スタートからゴールまで一定の心理的な
ペースを保つ

ゴール間近で失敗する子どもが多い！

緩急の必要性

「ゆっくり」が大切

でも..

「速く」があるから
「ゆっくり」がある

遅い	速い
----	----

「速く⇔ゆっくり」の緩急をつけられる



「ゆっくり」ができることにつながる

見通し(プラン)の必要性

見通し(プラン)があることが、
行動を落ち着かせる



「見通し」のトレーニングが、
行動の抑制につながる



「ゆっくり」が見通しの暇を与える



★「描く・書くこと」と衝動性

描く・書く行為は、
衝動性や固執と結びつきやすい

- 自閉傾向を持つ子どもの
書く(描く)ことへのこだわり
- 脳損傷による書字衝動亢進や
道具(筆記具)の強迫的使用

描線や書字を「ゆっくり」行う

＊ 意義と難しさの両面がある

「よけてゴールしよう」の課題をしていると・・

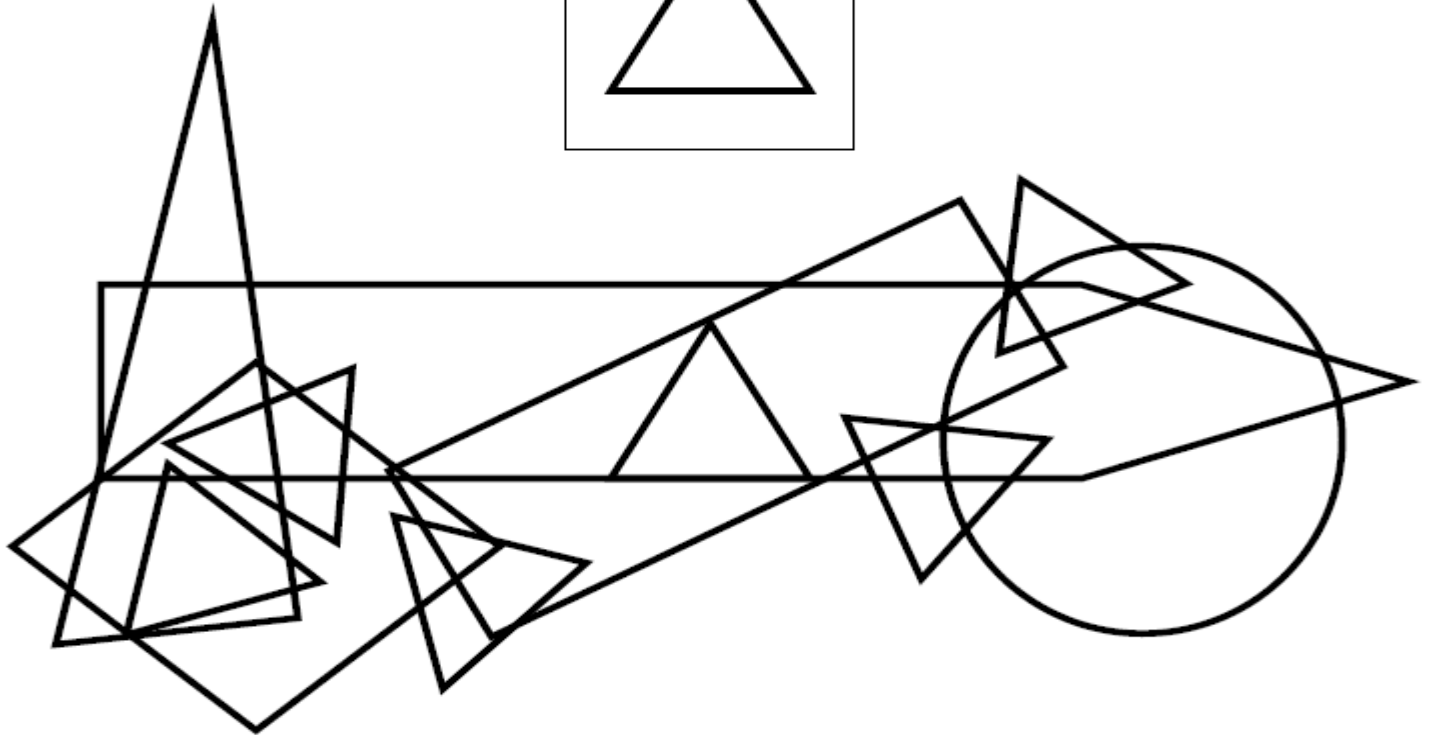
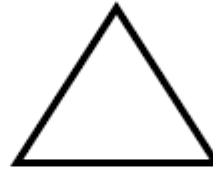
子どもの運動の特徴がよく表れる

動きがぎくしゃくしていたり、
速度に疎密がある子どもは、
線を引く場合も、一定のペースを
保つことができないことが多い

6 形を探そう

かたちを さがそう 1

さがすかたち



ぜんぶで () こ

6 形を探そう

●学習の目的

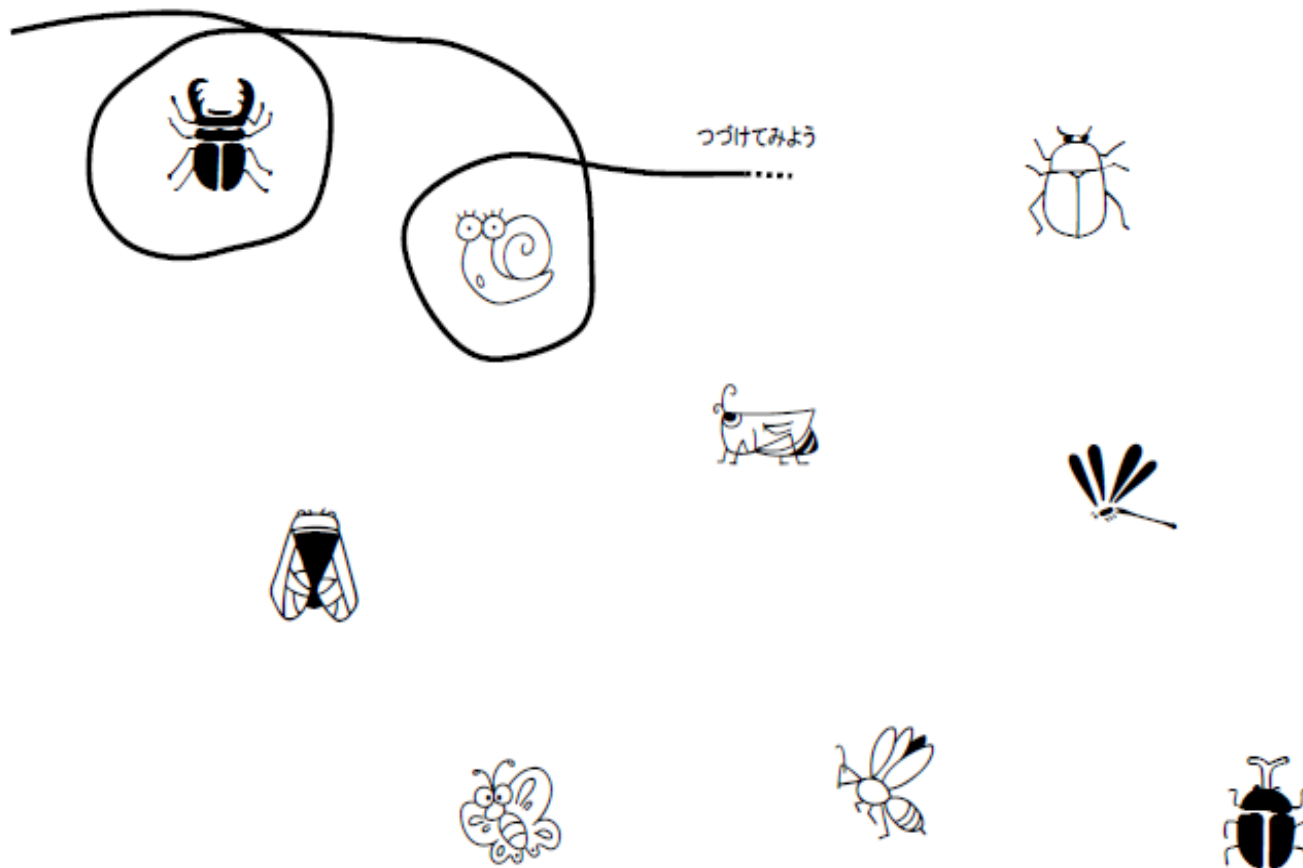
錯綜図の中の図形探索と抽出を通して、
地と図の認識能力を高める

★描線能力として

対象となる図形の外周を、方向の近似する線
に惑わされずに、たどれるように。

7 線で捕まえよう

せんで つかまえよう 1



7 線で捕まえよう

●学習の目的

同一線の交差（巻き線）によって、空間を閉じることができることに気づく。空間の開閉（または内外）の認識は、形の概念の基盤となる。

★描線能力として

交差する巻き線が連続して描けるように。

第15回学習会「線を考える」スライド

「線でつかまえよう」の目的

* 巻き線の描線練習

基盤となる線の認識と
描線能力が必要



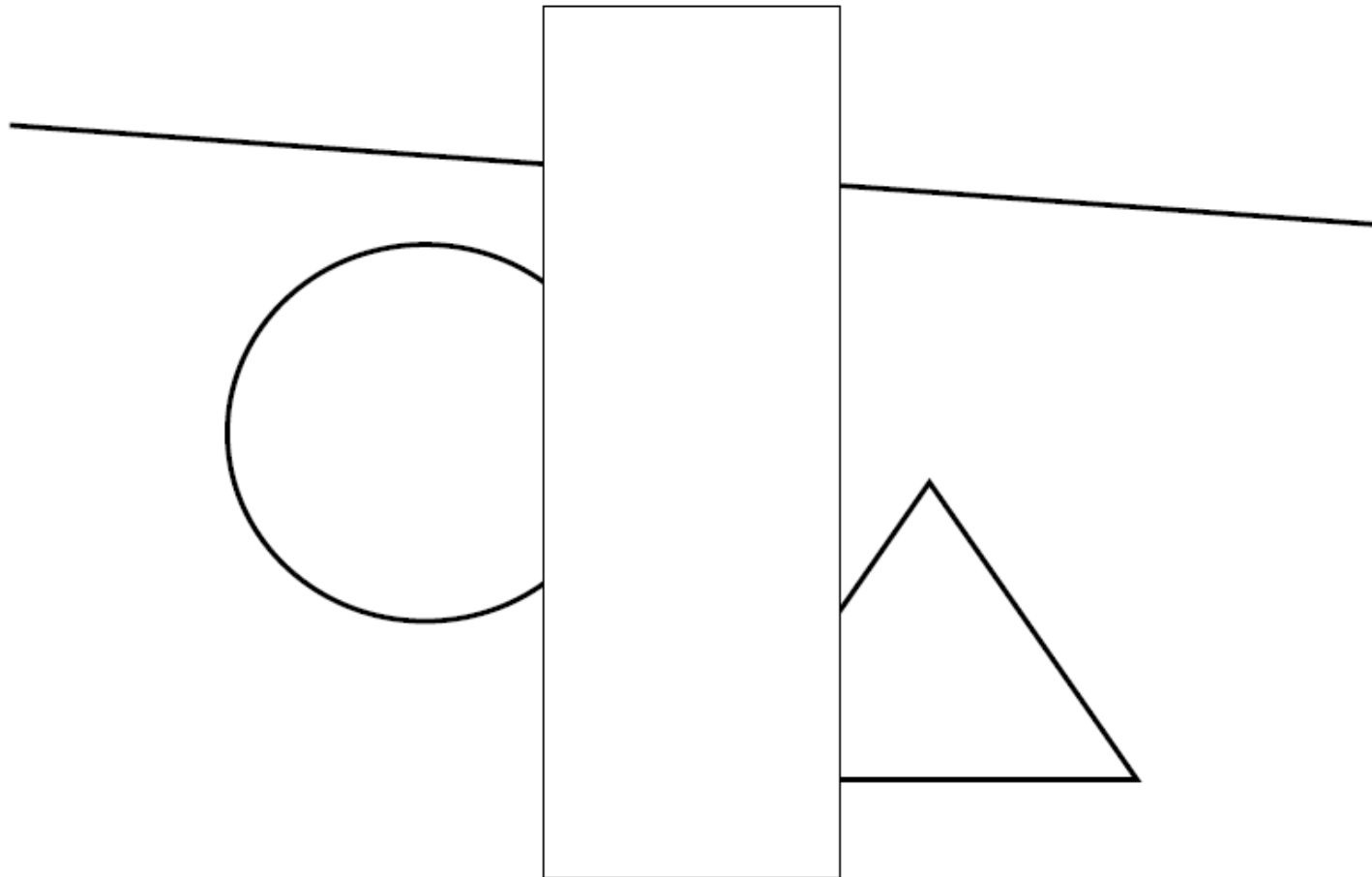
★ 知覚の体制化：よき連続

★ ストロークの成立

☞ 後述 ○線の理解の発達 ○ストローク

8 見えない線をつなげよう

みえないせんをつなげよう 1



8 見えない線をつなげよう

●学習の目的

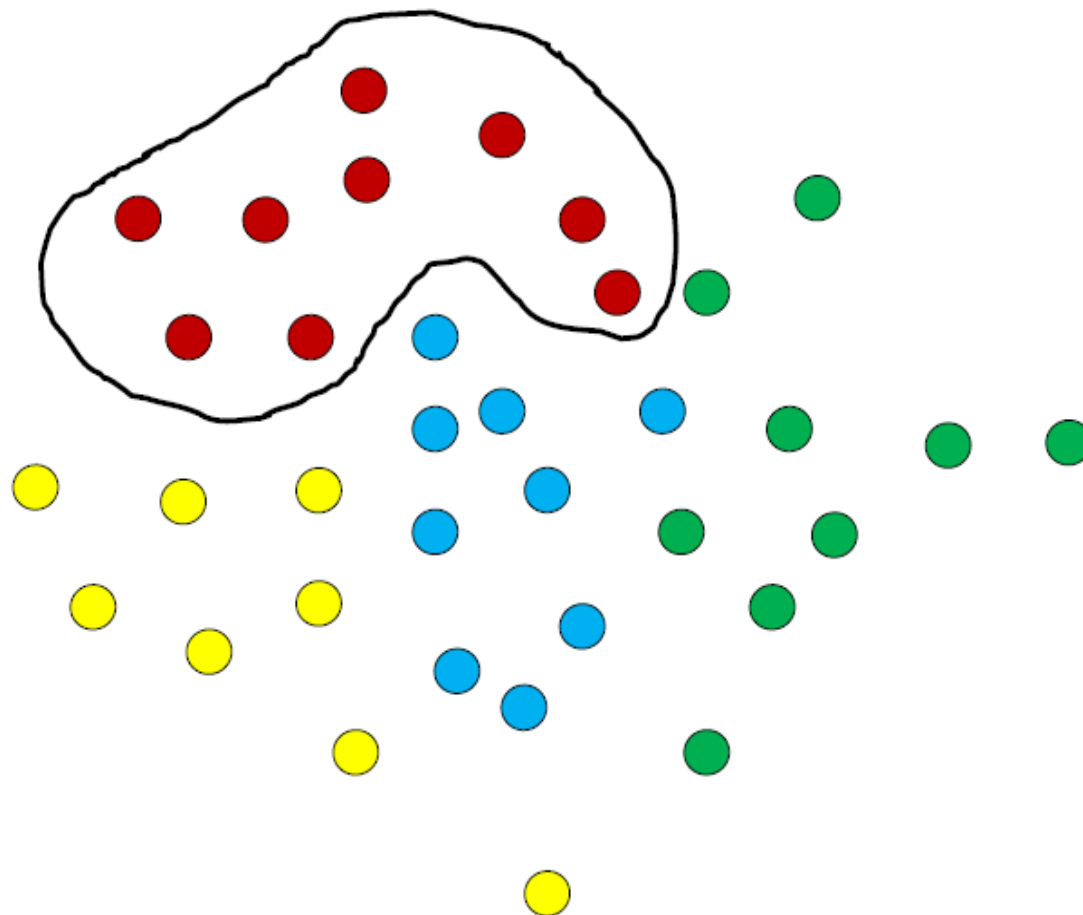
線や形の見えない部分の推測を通して、線や○△□などの基本図形の認識を高める。

★描線能力として

線の傾きに注意し、また変化の方向や変化率を予測して、崩れのない図形が描けるように。

9 同じ色の○を線で囲もう

おなじいろの○をせんでかこもう1



9 同じ色の○を線で囲もう

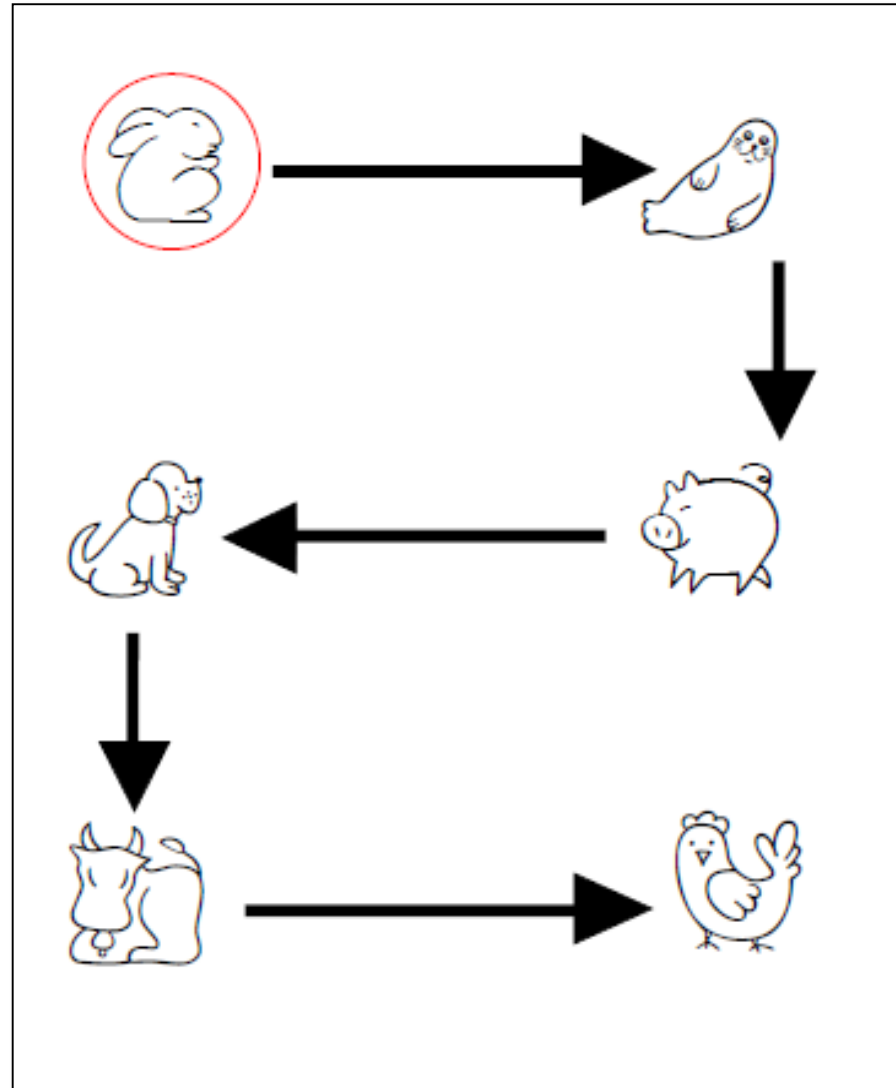
●学習の目的

線による囲み込みを通して、空間の開閉（内外）の認識と、その広さに対する気づきを高める。

★描線能力として

○の分布を俯瞰的に捉え、囲みこぼしがないように気を配りながら、一筆で線を引けるように。。

10 矢印をたどって○をつけよう



10 矢印をたどって○をつけよう

●学習の目的

矢印記号の指し示す方向を理解する。

矢印は、意味が理解されていても、注意力の問題で間違える子どもが多い。

生活や学習の中で基本的な役割を持つ矢印だが、線と図形(▲)の融合されたものであり、高度な社会的・文化的記号と考えることができる。

一本の線が引かれただけで、そこに上下や左右が生まれます。

また一本、線を加えると、そこに間や交わりが生まれます。また一本、線を加えると、そこには形が生まれるかもしれません。

一本の線は、子どもにとって、「描く」という表現活動のスタートラインです。

線の楽しさや不思議さを、
どもに感じてもらいながら、
楽しく学習を進めていただければ幸いです。

